

かわ そえ  
川添地区公民館  
TEL 0995 (75) 2881

# 共生・協働の 地域社会づくり

座右の銘は「夢人(ゆめびと)」  
(夢を持ち、夢を語り、夢をつなぎ、夢の実現。人ささえあい、人ともにたち、人ともによろこび、人ともに栄える。)

湧水町川添地区は、鹿児島県の中北部に位置し、約240世帯(うち高齢単身世帯60世帯)、約490人が暮らす農村集落で、11の自治会から構成されています。

高齢化率は42%で、児童・生徒数は、小・中学生合わせて10人程度となった時期もありましたが、その後、Uターン世帯の増加もあつたことなどから、現在その数は30人となっています。

ここでは日頃から顔の見える近所づきあいがあり、近所の人が「あそこのおばあちゃんはこの時間は散歩にでかけているよ」と所在を把握していたり、買い物に困っている方がいれば車でスーパーに連れて行ったりと、住民同士のつながりの強さが高齢者の生活面での安心に役立っています。また、敬老の日には、子ども達の校歌の合唱や肩もみのプレゼントなどの世代間交流も行われ、高齢者にとっても喜ばれています。

昭和54年に地区住民が作詞・作曲した「川添音頭」があり、会合などのたびに歌われ、歌詞にある「湧水、竹中池、桶寄川に飛ぶホタル、黄金の



敬老会で肩もみのプレゼント

稔る水田など」が大切にすべき地区の宝として住民の間にはしっかりと根付いています。

また、男性が踊る「太鼓踊り」と、女性が踊る「俵踊り」の2つの伝統芸能があり、地域行事で披露しています。踊りの練習には子ども達も参加するなど、伝統文化の継承に熱心に取り組んでいます。

毎年5月下旬には、地域ぐるみで「川添ホタルを観る夕べ」を開催し、広く地区内外の方に、地区一帯を飛び交うホタルなど美しい農村風景を楽しんでもらっています。老人会と子ども会が連携し、地区のシンボリック存在である竹中池の清掃、「花いっぱい運動」による花の植栽を行うなど、景観の維持・形成に取り組んでいます。

地区を流れる川内川は、平成18年7月の県北部豪雨災害で氾濫し、地区一帯も冠水しました。災害の記憶を忘れないように、公民館に残る冠水跡をそのまま残し記録する取り組みを行うなど、住民の防災意識の向上にも努めています。

これら地域づくりの取り組みは、地区公民館の文教部が手作りで作成した



老人会と子ども会で「花いっぱい運動」

## 代表者からひとこと



公民館長の桑原 さとし 佐年さん

いつでも、公民館に掲げた「夢人(ゆめびと)」の2文字を思い、地域コミュニティの強さを大切にしていきたい。

「川添公民館新聞」を通じて住民に広く紹介しています。

「地区での取り組みはたくさんあり、周りからは『大変そうだ』と思われるかもしれませんが、役割分担してみんなで取り組んでいるのでそれほど負担は感じない。最近では、移住してきた方にも、公民館の取り組みを通して少しずつ地域になじんでいただけるようになってきたと思う」と語る桑原公民館長。

高齢化が進むにつれて、それぞれの取り組みで指導的役割を担える人材が少なくなってきたおり、今後、担い手を確保し、取り組みを継続させていくことが地域課題の一つのことです。

住民がそれぞれ役割を分かち合いながら、世代を超えて連携し、地域づくりに取り組むことで、これからも安心して暮らせる地域であり続けることを期待しています。

共生・協働の地域社会づくりや  
NPO法人に関する問い合わせ先

◎共生・協働推進課(県庁9階) TEL 099(286)2241  
◎共生・協働センター(かごしま県民交流センター内) TEL 099(221)6613  
関連情報は、県ホームページの「共生・協働(NPO・ボランティア)」にも掲載しています。